



第82巻 第4号  
年4回発行  
社会福祉法人 慈生会  
〒165-0022  
東京都中野区江古田3-15-2  
TEL 03-3387-5567  
http://www.jiseikai.jp  
振替口座 ベタニアの家  
00170-6-15317

「養護老人ホームの役割と機能」

富田 浩

東京都内の養護老人ホームは三二カ所あり、身の回りのことが自立した方から、見守りや声掛け、少しの手助けがあれば自分で行う方を対象者としています。その目的は、「入所者が自立した生活を営み、社会的な活動に参加するために必要な指導や訓練、その他の援助を行うことを目的とする施設」になります。施設では入所者の有する心身機能や経験知識を発揮することができるよう努め、必要に応じて、介護保険サービスを導入し、一人ひとりがその人らしく、施設と言う枠にとらわれずにできる限り自立した生活を送れるように支援していくことも目的としています。入所者の高齢化に伴い、要介護状態になった場合には、他の介護保険施設へと移ることで橋渡しを行う中間施設の役割も担っています。養護老人ホームの成り立ち(後の生活保護法)に基づいて設置された「養老院」にまでさかのぼります。養老院は様々な生活困窮者の

施設でした。その後、一九六三(昭和三八)年に「老人福祉法」が施行され、特別養護老人ホーム、養護老人ホーム、軽費老人ホームへと分化していきました。

養護老人ホームは、要養護高齢者を区市町村が公的な判断により、入所法の決定をすることができ、老人福祉法の中の「措置施設」として、被虐待高齢者や生活保護受給者、低所得者、触法高齢者、身寄りのない孤立した方、行き場のない方、心の病気を抱えた方などの生活に課題を抱え、公的支援を必要とする高齢者の生活を支えています。しかし、法的に言えば入所者にとってサービス利用の権利性が乏しいことや、サービス利用に当たって申請から決定まで時間がかかる行政手続きを経なければならぬこと、入所者はサービス提供施設や事業者を選択できないこと、措置費と言う税財源による予算の制約を受け、需要に応じたサービス量の拡大に柔軟な対応が難しいことなどの積み残された問題や課題があるように感じています。

聖家族ホームの設立は、一九五九(昭和三四)年一月になります。「聖家族ホーム」と言う名称は、創立者のヨゼフ・フロジャク神父様が

ホームで生活するご利用者様がイエス・マリア・ヨゼフの立派な家族に倣って清らかで、明るく平和な生活を送ることができるようと言う想いを込めて名付けられました。

ご利用者様は、朝のラジオ体操で体調確認してから、お散歩や買い物、病院受診の準備など様々な時間割りに沿って生活されています。冒頭では、身の回りのことが自立した方とありますが、現在、ご利用者の三分の二の方は、介護保険サービスを利用して、今後も認知症対応や障害、精神疾患等を持つご利用者様の増加が予測されます。排泄や入浴介助、病院受診の付き添いなど、職員が介護を提供する場面も増えてきており、介護知識や技術の向上を図るとともに適切な対応と介護事故防止に努めています。コロナも日常化して日々の生活も以前の生活に戻りつつあります。ご利用者様は、買い物などの身の回りの用事を済ませながら社会生活を過ごした後は、お好みで余暇活動に参加しています。ボランティアによるアニマルセラピーでは、セラピー犬との触れ合いによって緊張がほぐれてストレスの解消につながったり、癒しや安心感を得ることから穏やかな気持ちで芽生えているように感じます。七月には三年振りの陶芸クラブの再開を喜ばれる方や緊張気味に初めて粘土を練りながら形成される方もいました。職員もテイクアウト方式の味わい巡りやミニバザー、ドーナツカフェや映画会、介護予防体操等のレクリエーションを提供して孤立感の解消や活動量を増やして心身及び身体機能の維持・

向上に努めています。施設には、六十〜九十歳代の方が暮らしており、生活環境の異なる方々が共同生活することは難しい時もありますが、ご利用者様の健康と安定した生活が送れるよう喜びの時も悲しみの時も寄り添い、明るく希望を持って豊かな人生を共に歩んでいき、キリストの愛に基づいたもてなしの中で地域の方々と関わりを深めながら親しまれる施設作りに邁進して参ります。そして、感染症予防には継続して取り組みながらも、ご利用者様の人生を大切に思いやり、楽しく生活していただけるように適切な距離感で信頼関係を深め、優しい心と広がる笑顔をお届けしていきたいと思っております。

(聖家族ホーム 施設長)

計報

慈生会の常務理事 櫻井 正昭氏が、去る九月三日、新型コロナウイルス感染症のため総合東京病院で帰天されました。八十歳でした。



櫻井 正昭氏は、平成十年一月に慈生会の監事に就任して以降、評議員や理事を歴任し、二十五年以上という長きにわたる慈生会の運営に貢献して頂きました。平成二十六年に法人本部事務局の事務局長代行、平成二十八年に常務理事に就任し、理事長の補佐及び職員への指導に尽力されました。

また、「創立者フロジャク神父の歩みをわかりやすく伝えたい」という気持ちを持って、職員研修ではフロジャク神父の生涯を通して慈生会の成り立ちを話され、本誌「瑠璃草」の編集責任者としてベタニアの家と事業の原点であるフロジャク神父のことを書き、神父の想いを今に繋げながら、歩み続けておられました。

『せせらぎの小径』  
改修工事について

平橋 誠次

残暑厳しい今年の夏ですが、慈生会職員の皆様はいかがお過ごしでしょうか。ここ、那須の避暑地であるマ・メゾン光星でも厳しい暑さが続いています。

さて、マ・メゾン光星には、昭和天皇からいただいた土地が九三ヘクタール近くあります。とても広大な土地であり、新しい職員にとってはその範囲が把握できないほどです。

この土地を管理しやすいようにと、現在まで四つの道路が整備されました。その中の一つが『せせらぎの小径』です。川のせせらぎに沿って歩く一・二kmの小径であり、春の新緑から秋の紅葉まで、季節に合った散歩を楽しめるコースです。この道が完成してからは、聖ヨゼフの山での慈生会研修で利用されるようになり、時に私も同行し案内するようになりました。

また、この道は慈生会元理事長のミルサン神父様が亡くなる前に歩かれた、私にとっても思い出の道でもあります。

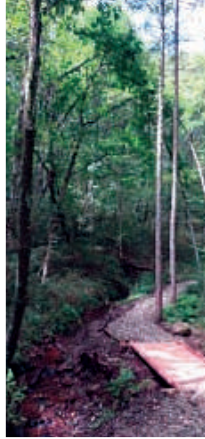
整備された道ではありますが、この道も自然の森の中にあるため、年二〜三回の草刈りを実施しないと草の成長に負け、歩くのも困難になってしまいます。また、年月が経つと共

に小川に架けられている橋の老朽化が進み、腐った箇所が出てきていました。

ある日のこと、慈生会研修に来ていた職員がせせらぎの小径を歩行中、橋の板が抜ける事態が起き、改めて橋を整備する必要性が生まれました。業者との打ち合わせを重ね、小径を整備した結果、六カ所の全てが安全な橋に生まれ変わりました。今度の橋は、木造だった橋に比べて、鉄骨と腐る事のない材質が使われているので、当分の間安心して利用できると思います。



これから秋に向けて季節は変わっていきますが、慈生会研修のみならず、『マ・メゾン光星』に来所された際は、時間を見つけて散歩して貰えたら幸いです。



これからも、今回整備した『せせらぎの小径』を始め、この那須の自然を生かしながら、草刈りや倒木の伐採等を通して、慈生会の貴重な森林を皆で管理し、活用して欲しいと思います。

(マ・メゾン光星 生活支援員)

『コロナ禍後の夏に』

森 乃里子

保育園では、新型コロナだけでなく熱中症対策にも、安全な運営を求められています。四年ぶりに、クラス単位だった活動(濃厚接触者を最小限に留める)が緩和され、クラスの様を超え、嬉々として園庭での交流を楽しんだのも束の間、六月下旬より「今日はお外遊びが出来るかしら」と、保育士は朝から「熱中症アラーム計」とにらめっこです。

令和元年度より、熱中症事故防止のため、戸外あそび・水遊びには十分な配慮が必要とされ、各クラスにはタニタの「熱中症アラーム計」を配置しています。中野区子ども教育部保育園課の指針「①暑さ指数三三°C、乾球温度三五°C以上の場合、戸外遊び・水遊びを原則中止する。」

②水温+気温が六五°Cを超える場合は、原則として水遊びを見合わせる。」がクリア出来ないとお散歩にも、園庭遊びも、プールにも入れません。遮光ネットで対策し、外気温・水温の上昇前にプール開催時間を早める、短時間で切り上げる等で、実施回数を増やす努力をしています。

○歳児(二歳児はお部屋の外のウッドデッキで水遊び。水を掬い、ペットボトルや如雨露などに水を出し入れし、流れてきた水を何度も受け止

めて感触、動きを味わいます。水を怖がり、保育士に抱っこされていたお子さんも、こうした遊びを繰り返すことで、水の冷たさや動き、感触、心地良さを味わい自然と楽しめるようになります。色水遊びは、偶然の色の変化に驚き、不思議さに心を動かされます。三〜五歳児は屋上の組み立て式プールで。水飛沫とはじける歓声は、暑さを吹き飛ばし私たち職員を笑顔にしてくれます。



この秋も、年長児は「腐葉土作り」の落ち葉を江古田の森に大量に集めるに出掛けます。園芸ボランティアの赤塚様は手作りの紙芝居で「地球がね、お熱を出しているの」と導入し、「二酸化炭素を排出しない落ち葉の活用方法ですよ。」と話された後、米糠を混ぜ合わせ、長靴を履いた二十名の子供達の足裏で踏みしめます。地球温暖化の時代は終わり「地球沸騰の時代」に入ったと言われます。水に親しむ機会も、季節を早めたり期間を長くしたり、八月は室内で活動する等、保育計画に大胆な転換を迫られた、去年とは違う夏でした。

(徳田保育園 園長)

時の流れを感じながら

榊原 範子

この度は、永年勤続の表彰を頂きありがとうございます。

私がナザレットの家に就職する事になったきっかけは、乳児院を知りたいと思っていた学生の私に、ボランティア活動先として紹介してくれた事でした。

当時は施設長、事務所の職員もスタッフが多く、就職してからも優しく見守っていただき、今でも当時お世話になったシスターにお会いすると感謝の気持ちが溢れます。

養育の現場におきましても、先輩方に支えられ、良き同期や後輩にも恵まれたお陰で今日まで勤め続ける事が出来ました。

三十年の年月が経ち、時の流れと共に乳児院も大きく変化してきました。今後初心を忘れることなく、ナザレットの家が子ども達一人一人にとって安心して生活できる居場所であり続けるために「今、何が出来るか」を常に考えながら、時代に合った養育を目指し努力していく所存です。

これからもよろしくお願い致します。

(ナザレットの家 保育士)

三十年を振り返って

諸橋 亜矢子

私が初めてナザレットを訪れたのは、ちょっとおめかしした男の子が皆に見送られているお別れの日でした。担当と思われる保育士さんが、エプロンで顔を覆いながらわんわん泣いていた姿を今でも鮮明に覚えています。

当時はまだ、あらゆる点で規制が緩かったため、事務の方が区役所に用があると「じゃあ、今日はドライブしよう」と、子ども達も一緒にナザレット車に乗せてもらうことができました。敷地内のお散歩中でも「できたてよ。食べる？」とホームの方が裏口から出てきて熱々のパンケーキを振る舞ってくれたことも。

同じ慈生会で働いたたくさんの方々に、たくさん愛情を注いでもらいながらナザレットの子ども達は育てられていたことを強く感じます。

三十年経っても変わらないのは、皆で見送るお別れの場面。見送った子ども達が訪れた時、当時の様子を伝えられることが、長年勤めてきて良かったと思える幸せな時間です。

(ナザレットの家 保育士)

4年ぶりのジンギスカン!

鈴木 真奈美

お神輿、櫓、太鼓、盆踊り、夜店が久しぶりに解禁!コロナ禍の中、これらフルセットの納涼大会がしばらくおあずけになっていました。感染対策に気をつけながら園内のみのお祭りは出来ていたものの、少し寂しさも感じていたので、今回の納涼大会はとても喜ばしいことでした。

久しぶりすぎて段取りに不安はありましたが、初めて取り組む職員も経験のある地域の方や職員と共に着々と準備を進めてくれたのが心強かったです。盆踊りも職員自身が踊り方を思い出すのに一苦労。今回は踊りの先生も不在ということはどうなることかと思いましたが、子どもたちが積極的に参加してくれて元気をもらいました。

連日の暑さが少しだけ弱まった当日、子どもたちの元気な声が響くお神輿から始まった納涼大会。地域の方からの力強い応援をもらいます。立派な櫓と提灯の下で地域の方の力強い太鼓の演奏が鳴り響きました。演奏の後には太鼓のバチを貸してもらい、「太鼓の達人」になる子どもも。夜店では今川焼・ミニお好み焼き・フランクフルト・かき氷・綿あめ・おもちゃなどが並ぶ中で思い思いのものを買い、ヨーヨーを釣り、職員の盆踊りを見ながら忠実に踊る

うとしてくれる子どもたちの姿、踊りの輪に入らなくても音に合わせて手を叩くナザレットの子どもたちの姿はともかわいらしかったです。締めは待ちに待った4年ぶりのジンギスカンのダンスです。「ジン、ジン、ジンギスカン♪」と音楽がかかると、盛り上がりは最高潮に!納涼大会でいつも心を寄せてくれる地域の方とご一緒出来たこと、何より子どもたちの笑顔がたくさん見られたことが嬉しかったです。子どもたちの力は、夜店のお手伝いや納涼大会が終わった後の片づけでも発揮されました。丁寧にフランクフルトを焼く子、職人のようにかき氷の機械を操る子、キレイに綿あめを作る子、俊敏に片付けに精を出してくれる子どもたち・地域の方・職員の皆さん、本当にありがとうございました!



後日、嬉しいニュースがありました。この納涼大会が楽しかったとのことでナザレットの家で改めてお祭りを開き、手作りの櫓を囲んで子どもたちと楽しんだそうです。

(ベトレム学園)

里親支援専門相談員)

廃棄を続けることは、道義的・倫理的にも心が痛みます。  
 【すべてはつながっているから…】  
 食品ロスが大量に出る↓焼却処分  
 温室効果ガスが排出↓地球温暖化  
 異常気象↓自然災害発生・・・】



「ずっとこの地球に生きていけるよう みんなが幸せで より良い社会をつくらう」そのため全世界で二〇三〇年を目指してSDGsの十七の目標が取り組まれています。今回はその2番の目標「飢餓をゼロに」を身近な小さなエコから見てみます。日本では子どもの七人に一人が貧困状態にあり、一方で、食品ロスが大きな問題です。このまま食料の大量

未来の子どもたちからの  
預かりもの  
種まきシリーズ ⑦  
ベタニア修道女会

SDGs  
目標2  
飢餓を  
ゼロに

私達がこのつながりを意識しながら小さなエコを行うなら、目標2「飢餓をゼロに」にもつながっているはず。だから \*食事は残さない努力をしています。 \*パンは短時間で焼けるガス台の魚焼き器を使っています。 \*冷凍ご飯などは蒸かして温めています。

底から良く混ぜ、その後蓋をして一カ月寝かせて出来上がると果物の木の周りにやります。 \*実った果実は手製ジャムにします。 \*畑も耕し、野菜作りにも。 \*買物にはかごを持参しています。

庭の落ち葉をかき集め、一カ月毎日台所から出る野菜のくずや果物の皮を入れて丁寧

地球村に住むすべての人々と一緒に神様の正義と平和の福音を生きるよう、神様から恵みと力を頂きつつ、謙虚に「主よ、私たちの心を変えてください」と祈りながら、今後も努力していきます。

(記・Sr乙黒 靖子)



今年の夏の猛暑は、人生初となる夏バテを経験しました。毎年熱くなるので来年が心配になります。さて、今年の敬老の日は、4年ぶりに敬老祝賀会を開催しました。参加者を1



『ベタニアの家チャリティーコンサート』開催のお知らせ  
 今年もベタニアの家チャリティーコンサートを開催いたします。皆様のご参加とご協力をお願いいたします。

日時 令和五年十二月五日(火)  
 開場 十三時  
 開演 十三時半

出演 野方区民ホール  
 黒田晋也氏、黒田聡子氏

チケット & 申込問い合わせ  
 (福) 慈生会 法人本部事務局内  
 ベタニアの家チャリティー  
 コンサート実行委員会  
 電話番号 03-33387155 67  
 主催 ベタニアの家  
 チャリティーコンサート実行委員会

計 報

シスターバルバラ 重永 孝子

一九三五年 九月 八日 生  
 一九六九年 二月 十一日 立誓願  
 二〇二三年 七月 二十九日 歸天

ベタニア修道女会

00歳以上の方と節目を迎える方、そして、そのご家族と限定させていただきます。参加者でなく、皆さんが参加できる祝賀会になることを願っています。(中村 英男)

子どもたちが夏休みに入り、今年が四年ぶりに夏行事が三年間中止や縮小という形で、この三年間は中止や縮小の域の方と不安定な日帰りの宿泊の行事、八月下旬の平和と感謝のミサ、フェイヤー祭と四年前までの規模ではできないこともありましたが、子どもたちの笑顔を見ることができてよかったです。(関 広宣)

この夏、世界陸上ブダペスト大会で北口榛花さんが女子やり投げで優勝しました。彼女の「母が笑顔で幸せを引き寄せる」と言っていたので、常に笑顔でいるように心がけています。「という言葉に感動を覚えました。人は親を始めとする人間関係に大きな影響を受け、自分自身の価値観を母り上げていきま。北口も周囲のお母様に素晴らしい価値を彼女の人な育てました。私も、家族や大切な人になりたいたいと思いました。

カトリック教会では二年前から新しい神の民として、「キリストとの親しさ」が正しくあかしされているか見定める作業が進んでおり、十月四日からパチカンで世界代表司教會議(シノドス)が行われます。参加者三六二名中五十人が一般信徒から選ばれ、決議権を持つ形は初めて。女性の利用も広く開かれ、日本からシスター西村桃子(セルヴィエヴァンジュリー)とシスター弘田鎮枝(メルセス)のお二人が選出され吹きます。議場に聖霊の新しい風が吹きます。議場に聖霊の新しい風が吹きます。

(Sr中野 利恵)